

令和7年度 第3回神奈川県合同輸血療法委員会世話人会 議事録

I. 日 時：令和8年3月9日（月）18：30～

II. 場 所：神奈川県赤十字血液センター会議室

III. 参加者：

世話人：野崎先生（議長）、大久保先生、柴崎先生、三津田先生、宮崎先生、
小川先生、佐々木先生、大島先生、山崎先生、石井先生、豊田先生、
渋谷先生、萩原先生、原田先生、横沢先生、豊崎先生（オンライン）

アドバイザー：寺内先生、牧野先生、浦谷先生（オンライン）

IV. 本日の議事と内容

1. 議長挨拶

野崎先生より挨拶。

血液製剤使用適正化方策調査研究事業の報告書は3月2日付で学会事務局に提出済。

2. 前回議事録の確認

前回議事録について確認した。

※次回以降、議事録については世話人会で印刷物の準備はしない。

先生方にはメールでPDFデータを送信し確認後、神奈川県合同輸血療法委員会のホームページに掲載する。

3. R8年度の活動予定について

- ・令和8年6月8日（月）18:30～ 第1回世話人会
- ・令和8年9月 or 10月 多職種合同カンファレンス（小委員会）
- ・令和8年11月9日（月）18:30～ 第2回世話人会
- ・令和9年1月9日（土）第21回神奈川県合同輸血療法委員会
- ・令和9年3月8日（月）18:30～ 第3回世話人会

⇒多職種合同カンファレンスについては日程を詰めるがその他の日程は確定とする。

4. R7年度 第20回神奈川県合同輸血療法委員会実施報告

今年度は初めてハイブリット開催としたが、参加人数は昨年度に比べると増加。

今年度は看護師の参加が多く、それに比例しアンケートの回答数も増加。

アンケート結果として、満足後に関する設問に対して否定的な意見はなし。

献血のチラシに関しては、11名の利用があったことを確認。（藤井）

5. 第 21 回神奈川県合同輸血療法委員会について

1) 開催形式について(参集・ハイブリッド・オンライン)

ハイブリッド開催

2) 会場について

神奈川県赤十字血液センターで開催

(次年度は今年度よりも現地での参加可能人数を少し増やすことも考慮する)

3) 基調講演について

案 1) 赤血球前駆細胞を用いた不規則抗体同定用血球試薬開発 (寺内先生ご提案)

演者候補: 日本赤十字社血液事業本部中央血液研究所 船戸興自先生

案 2) 輸血療法実践ガイド

案 3) 人工赤血球の開発 (豊崎先生ご提案)

演者候補: 奈良県立医科大学病院 松本雅則先生 (or 酒井先生)

【各先生方からご意見】

- ・輸血療法実践ガイドは 2 月 26 日付で学会のホームページに掲載された。大量出血症例に対する血液製剤の適正な使用のガイドラインや PBM の内容も盛り込まれている(学会では PBM ガイドライン検討タスクフォースも立ち上がっている)。新しい文献が出る度に改訂を行わなければならない状況を鑑み、国で指針の改訂を行うより、輸血学会が主体となってガイドラインを作成した方がベターであると判断された。世界規模で見ると PBM の概念がものすごいスピードで広がりつつあるが日本では遅れ気味である。(牧野先生)
- ・輸血療法実践ガイドであれば演者は次期ガイドライン委員長の自治医科大学附属病院の藤原慎一郎先生にお願いすることになる。最近是小委員会の活動も活発なので基調講演の時間を一部割いて小委員会の報告に割り当ててもいいかもしれない。5 月に横浜で開催される輸血学会総会の内容も踏まえて次回の世話人会で皆さんに案を出してほしい。(野崎先生)
- ・人工赤血球に関しては酒井先生にお願いしてもよろしいかと思う。臨床試験のフェーズが上がった段階なので、数年後に講演をお願いしてもいい気もする(野崎先生)

6. 小委員会の R8 年度の活動予定について

臨床検査部会小委員会

来年度の活動予定について報告(小川先生)

① 輸血認証の標準化に向けての提案書

提案書の改訂を 3 月中に実施予定。看護部会にも内容を確認してもらい、提案書の活用方法について検討する。

② 輸血説明動画

昨年実施したアンケート結果をもとに動画の内容を修正予定。

今年度は動画を視聴した患者を対象としたアンケートを実施予定。

横浜栄共済病院では既にこの動画を病院のホームページに掲載しており、実際に患者が視聴できるようにしている。けいゆう病院でも患者が視聴できるように調整を進めており、病院のホームページ上から患者がアンケートに答えてもらえるような仕組みを検討している。患者にアンケートを実施する上での課題として新たに倫理委員会を通す必要がある。

③ 災害時輸血対策マニュアル整備状況に関する調査

各医療機関での活用状況についてアンケートを実施する。

これに関しても倫理委員会を通す必要がある。アンケートの作成期限は5月中とし、7月中には実施したい。

④ 外来患者を対象とした輸血副反応に対する注意喚起資料の作成

聖マリアンナ医科大学病院から依頼のあった案件。

看護部会とも協力し、必要な情報を盛り込んだリーフレットもしくは動画を作成する。リーフレットに関しては輸血時に読んでもらうようなものを想定。また、在宅輸血の患者にも案内できるような広くカバーできる資料を作成したい。

⑤ 多職種合同カンファレンス

次年度は看護部会がメインでカンファレンスの内容を考えてもらうようにする。

具体的な案が出てこなかった場合は血液センターも含めて、災害発生時の訓練(ロールプレイング)を実施する。

日程の第一候補は10月3日(土)、第二候補は9月5日(土)だが、前後に学会等があるため、看護部会も含めて日程調整を行う必要あり。会場は神奈川県赤十字血液センターの会議室を予定している(確保済)。

【各先生方からご意見】

- ・ 輸血説明動画の患者用アンケートの素案はできているか?(野崎先生)
⇒新百合ヶ丘総合病院で運用中のものを基にして作成する予定(小川先生)
- ・ 個人情報関連の項目を除いてもらえれば、一般研究として横浜市立大学の倫理委員会を通しやすいかと思われる。また、データ数の確保が課題だと思うので、患者に対するハードルを下げる意味で設問項目等を絞る必要がある(野崎先生)
- ・ 動画のダウンロードを行った医療機関は19施設だが、実際に運用状況を確認するのは横浜栄共済のみ。他の施設も含め患者用アンケートに協力してもらえるかアプローチする必要がある(小川先生)
- ・ 当院でも外来輸血の副反応のすべてのフォローは難しい状況ではある(野崎先生)
- ・ 聖マリアンナ医科大学病院ではI&Aを受診した際に重要事項として指摘を受け、外来患者を対象とした輸血副反応に対する資料を作成した。その過程で、群馬県合

同輸血療法委員会でもこのような資料を作成している情報を得たので、今回、神奈川県合同輸血療法委員会でも作成していただければと思い提案させていただきました。

(大島先生)

看護部会小委員会

来年度の活動予定について報告(石井先生)

- ① 多職種合同カンファレンス
内容については3/13の看護部会で意見を募り内容を検討する予定。
- ② 自己血関連
自己血をテーマとした研修会の提案。
自己血採血時に患者に見てもらうリーフレットの作成。
(採血後の帰宅時における注意点等の内容などを盛り込んだもの)

第74回日本・輸血細胞治療学会学術総会での講演内容について(2演題)

- ① 輸血説明動画 演者：浦谷先生 座長：野崎先生
- ② 多職種合同カンファレンスの開催 演者：野崎先生

第21回神奈川県合同輸血療法委員会(総会)での講演内容について(案)

- ① 基調講演
- ② 輸血説明動画の患者用アンケート or 説明動画改訂版の紹介(検査部会小委員会)
- ③ 外来輸血リーフレット(検査部会小委員会)
- ④ 看護部会小委員会より発表

7. その他

・次年度以降の世話人、アドバイザー、小委員会の変更について

【ご退任と後任】

世話人：渋谷先生が世話人ご退任。後任は同病院の田代先生。

森田先生が世話人ご退任。後任は東海大学医学部附属病院麻酔科 鈴木先生

石井先生が世話人ご退任。小委員長もご退任されアドバイザー着任。

後任は横浜市立大学附属市民総合医療センターの二瓶先生

アドバイザー：牧野先生ご退任。

【着任】

世話人：横須賀市立総合医療センター 萩野先生

東海大学医学部附属病院の橋本先生(看護部会より)

茅ヶ崎市立病院の山崎先生(看護部会より)

アドバイザー：湘南鎌倉総合病院 田野崎先生

・小委員会の規約について(石井先生)

石井先生から規約に小委員会長の任期を記載してほしいとの提案。

検査部会も含めて、小委員会発足からこれまで規約の改訂は行っていなかった。

他の県の合同輸血療法委員会の状況も参考にして、次回の世話人会や各小委員会で内容について検討することとした。

・神奈川県合同輸血療法委員会ロゴマークについて(浦谷先生)

作製されたロゴマークのデザイン説明あり(カモメ+赤血球+しずく)

合同輸血からのお知らせ文や学会発表等に汎用できるものとして考案された。

⇒一同賛同

・血液センター基幹システムの切り替えについて(事務局・大久保先生)

2025年3月31日の23:30~4月1日12:00にかけて血液センター全国一斉での基幹システムの切り替えに伴い血液製剤発注システムの利用が停止となる。この期間においては、仮納品システムでの対応となってしまうため、4月1日の午前便の納品をできる限り避けていただくご協力をお願いした。

・論文投稿の予定(小川先生)

災害対策の手引き：小川先生

輸血認証：山崎先生

輸血説明動画：浦谷先生

・虎の門病院で運用されていた輸血手帳について(寺内先生質問)

〈牧野先生ご回答〉

虎の門病院では当時から臍帯血移植の患者が多く、その半数が血液型の変更を伴うものであったため転院先で輸血を実施する際にどの血液型で輸血をすればよいか判断に困らないように作成したという経緯がある。外来輸血患者の帰宅後の副反応の発生数について集計はしていないが、そのような場合、患者がまずどこに連絡をすればよいかの判断をしやすい資料を作成することが大事なポイントであると考えている。軽度な副反応に関しては手帳に記入していただき、次回の来院時に主治医に相談してもらうような対応をしていた。

・第19回神奈川県合同輸血療法委員会の冊子配布について(事務局)